

五山送り火を見に行こう

京都夏の伝統行事、五山の送り火。ここでは概要や起源、楽しむのにおすすめのスポットを紹介します。

五山送り火って？

五山送り火は、毎年8月16日に行われる京都の伝統行事の一つです。送り火は、盆の翌日に冥府に帰るお精霊さんを送るという意味合いを持っています。地元の人々やボランティアによって行われてきました。以前は「い」や「一」なども点火されたことがありますが、現在は右の6か所だけです。それぞれおおむね30分の間、火がともされます。※当日、各山は立ち入り禁止です。

舟形



点火時間：午後8時15分
概略：この形の由来は諸説あり、慈覚大師円仁の故事から、「船」を「乗」と見なし「大」とあわせて大乘仏教を表している、灯笼流しの舟などの説がある。

妙



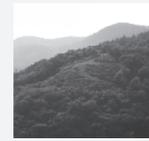
点火時間：午後8時10分
概略：妙法の妙。鎌倉末期に日像上人によって地元の人たちが日蓮宗に入った際に書かれたものとされている。前日には、涌泉寺で題目祭、さし踊が催される。

法



点火時間：午後8時10分
概略：妙法の法。始まりは妙より遅く、江戸時代に日良上人により書かれたとされている。妙法の左読みは、単純に法が妙の西に書けなかったからといわれている。

左大文字



点火時間：午後8時15分
概略：東山の大文字に対し左大文字と呼ばれている。起源は確かにはわかっていないが、大文字よりは遅く、1670年ごろに始まったとされている。

鳥居形



点火時間：午後8時20分
概略：始まりは定かではないが、空海が石仏千体を刻んでその開眼供養を営んだときに点火した、稲荷大社のお灯明としてたかれたなど諸説ある。

船岡山公園

見える送り火：鳥居以外
ひとこと：京大からは少し遠いが、公園内で場所を変えればほとんどすべての送り火が見えるのでオススメ。

見える送り火：大、法
ひとこと：デルタ東側の橋の上から大と法がよく見える。そのまま賀茂川を北上していけば舟形も見えてくる。

見える送り火：法（妙）
ひとこと：正面に大きく法が見える。川沿いに北に行くか、北大路を西に行くことで妙もきれいに見える。

京都大学

見える送り火：大+a
ひとこと：研究室のある建物の上の階からは大以外に、法や西のものもよく見える。これは研究室に入った人の特権だろう。

大文字



点火時間：午後8時
概略：京大生に最もなじみの深い大文字。起源には平安初期に空海が、室町中期に足利義政が、江戸初期に近衛信尹が始めたなどさまざまな説がある。